

平成 22 年 5 月 6 日

関係大学(研究科、学部)の長 殿
関係機関の長 殿

信州大学農学部長
中村 宗一郎

教員公募について(依頼)

時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、このたび本学部では下記の要領で助教候補者を募集いたします。

つきましては、関係各位にご周知下さいますよう、よろしく願いいたします。

記

1 募集内容

- 1) 募集人員： 助教 (特定有期雇用) 1 名
- 2) 所属： 農学部プロジェクト研究推進拠点 (生物生産システム科学分野)
詳細については、別紙資料をご覧ください。
- 3) 専門分野： 家畜衛生学
食資源の根幹の一つである家畜を改良し、付加価値と安全性の高い畜産物を提供するため、家畜の生産性に及ぼす飼養衛生及び環境衛生の影響を解析し、新規家畜生産システムの構築に重点を置いた教育研究を担当できる方を募集します。
- 4) 応募資格： 博士の学位を有し、家畜の生産性に及ぼす飼養衛生及び環境衛生の影響について分子レベルから個体レベルまで幅広く精力的な研究を行っている方を求めます。外部資金の獲得や社会活動に対しても意欲的に活動していただける方を求めます。なお、獣医師免許を有している方が望まれます。
- 5) 担当業務： 農学部プロジェクト研究推進拠点生物生産システム科学部門に所属し、「生理・生体機構解析による家畜生産制御技術の構築」を主として担当します。学部教育では「家畜衛生学」を主に担当し、その他「家畜解剖学」「食料生産科学動物実験」などの関連科目を分担していただきます。大学院教育では「動物形態情報学特別演習 及び」、「動物資源生産学特別実験実習」などの科目を分担していただきます。なお、松本キャンパスにおいて共通教育科目及び専門科目を担当して頂くことがあります。また、研究活動に支障のない範囲で管理運営業務にも従事していただきます。
- 6) 着任予定時期： 平成 22 年 10 月 1 日から

2 提出書類

- 1) 履歴書 (写真を貼付して下さい)
- 2) 研究業績目録 (著書、論文、総説、最近 5 年間の口頭発表、その他に分けて、A4 用紙に

- 記載して下さい) 一部
- 3) 主要原著論文や総説の別刷またはコピー (最終選考の段階で全業績の別刷またはコピーの提出を求めます) 各一部
 - 4) これまでの研究概要 (A4用紙2枚以内にまとめて下さい) 一部
 - 5) 着任後の教育・研究についての抱負等 (A4用紙1枚以内にまとめて下さい) 一部
 - 6) 教育研究活動、学会関連活動、社会活動など参考となる事項 一部
 - 7) 科学研究費補助金等の外部研究資金獲得状況 (A4用紙に種目、題目、代表・分担の別、研究費総額等を明記して下さい) 一部
 - 8) 研究業績等について所見を書いていただける方2名の連絡先 (A4用紙に氏名、役職、所属機関、住所、電話番号、e-mailアドレスを明記して下さい) 一部
 - ・提出書類は返却できない場合もありますのでご了承下さい。

3 面接等

選考の過程で面接やプレゼンテーションを依頼することがあります。

4 応募締切り： 平成22年 7月 9日(金) 必着

応募書類送付先および問合せ先

〒399-4598 長野県上伊那郡南箕輪村 8304

信州大学農学部

選考委員長 平松 浩二宛

電話：0265-77-1432

e-mail：seitaik@shinshu-u.ac.jp

(封筒に「プロジェクト研究推進拠点教員応募書類在中」と朱書きして、書留郵便で送付して下さい)

付記

信州大学農学部は食料生産科学科、森林科学科、応用生命科学科の3学科、農学研究科食料機能開発学専攻、および附属アルプス圏フィールド科学教育研究センターで構成されています。食料生産科学科は農学分野および動物生産学分野から構成されています。

詳しくは農学部ホームページ <http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/agriculture/> をご覧下さい。

(別紙)

「生理・生体機構解析による家畜生産制御技術に関する研究チーム」の設置

【背景と目的】

近年、我が国の家畜・家禽生産は BSE や鳥インフルエンザなどの発生による食の安全性に対する脅威と過度に輸入飼料に依存するため、異常気象等による供給の不安定性に曝されている。信州は豊かな自然と新鮮な農産物に恵まれ、我が国でもっとも健康的な暮らしを呈示できる地域の一つである。この健康な生活を維持・発展させるために、地域中心の動物資源の開発と安全性の高い生産技術の開発は重要な課題であり、信州の地域資源を利用した新たなブランドの開発にもつながるとともにこの地域の畜産経営に大いに寄与するものである。このような観点から、地域循環型の新たなシステムを構築することが急務となっている。

本研究チームは、食資源の根幹の一つである家畜を改良し、付加価値の高い畜産物を安全に提供するために、家畜及びそれを取り巻く環境としての野生動物の生体機能と新たな生理の分子メカニズムの解明を目指すことで、地域中心の新規家畜生産システムの構築に向けての研究を進展させることを目的としている。

【研究組織】

佐々木晋一(教授)	代謝・内分泌学	総括、反芻動物における脂肪細胞増殖・分化制御機構、有用経済形質遺伝子の探索とその情報伝達機構の解明
神 勝紀(教授)	飼料学	飼料栄養素の調節による家畜生産システムの改善 (家畜飼養管理学研究チームと兼任)
米倉真一(助教)	動物生理学	栄養生理学的視点からの有用経済形質遺伝子の探索とその家畜生産システムへの応用
平松浩二(教授)	動物生体機構学	家畜消化管の内分泌組織及び免疫組織に飼養管理が及ぼす影響に関する機能形態学的解析及び野生動物の生理生体機構の解明
新任教員(助教)	家畜衛生学	家畜の生産性に及ぼす飼養衛生及び環境衛生の影響の解明

【研究の概要】

本研究チームは以下の5研究課題によって構成されるが、それぞれは有機的に関連しており、これらを総括することによって最適な家畜生産制御機構の構築を目指すものである。

1. 反芻家畜の脂肪組織への脂肪蓄積の調節による肥育体質の改善 (佐々木、米倉、神、平松、新任教員)
2. 反芻家畜における有用経済形質遺伝子の探索とその新規家畜生産システムへの応用 (米倉、佐々木、神、平松、新任教員)

3. 飼養管理が消化管内分泌組織及び免疫組織に与える影響に関する機能形態学的及び分子生物学的研究（平松、新任教員、神、米倉、佐々木）
4. 家畜の生産性に及ぼす飼養衛生及び環境衛生の影響に関する分子レベル及び個体レベルの解析（新任教員、平松、神、米倉、佐々木）
5. 家畜を取り巻く環境としての野生動物の生理生体機構の解明（平松、新任教員、神、米倉、佐々木）

【中期目標計画との関連等】

本研究チームは、農学部中期目標計画「地域資源を活用した安全で高品質な畜産物生産のための新規家畜生産システムの確立」に関するプロジェクトに関連する。主に食資源の根幹のひとつである家畜を改良し、安全で付加価値の高い畜産物を提供するために、家畜の新たな生理・生体機構の解明による家畜生産制御技術の開発に重点をおいている。この課題の遂行には、資源循環型の家畜生産システムの開発をめざす家畜飼養管理学研究チーム(仮称)や発生工学の手法を用いた有用動物の遺伝的改良と効率的な増殖を図る発生工学研究チーム(仮称)と連携が不可欠である。つまり、新規家畜生産制御技術の開発や野生動物の生理生体機構の解明には家畜飼養管理学研究チーム(仮称)との、有用経済形質遺伝子の探索とその応用には動物育種繁殖学研究チーム(仮称)との連携が必要である。これにより、輸入飼料に依存した家畜生産システムからの脱却を図り、長野県の地域資源を活用した安全性の高い高品質の畜産物を生産する新規技術の開発に向けての研究も発展させるものである。

【他のプロジェクトチームの編制】

家畜飼養管理学研究チーム(仮称)

- ・構成教員：唐澤 豊（教授・家畜栄養学）
神 勝紀（教授・飼料学）
松井 寛二（教授・草地利用学）
竹田 謙一（准教授・家畜管理学）
- ・資源循環型の家畜生産システムの開発を目的とする。

動物育種繁殖学研究チーム(仮称)

- ・構成教員：小野 珠乙（教授・家禽資源利用学）
鏡味 裕（教授・動物幹細胞工学）
- ・連携教員：濱野 光市（教授・動物生殖機能学）・・・AFC所属
- ・発生工学の手法を用いた有用動物の遺伝的改良と効率的な増殖を図る。

以上